

応募No.2 『なるほどコンテスト』応募用紙

タイトル	ロッドホルダーで「一石二鳥」		
会社名		担当者名	
業務	地盤調査 ・ 地盤補強工事 ・ 測量 ・ 建物検査		
分野	作業効率改善 ・ 安全活動		

活動に至った経緯

地盤調査員の人為的ミスによる調査深度の間違いを防ぐためにロッドホルダーを使用していましたが、検尺写真にも使用できないかと、考え そうする事により調査後にロッドを1本1本並べる手間がなくなり調査員の作業効率を改善できるのではないかと考えました。

改善後(工夫した点・苦労した点など)

- ・ロッドホルダーを最初、各測点箇所ごとに、地盤機近くに置いていたが測点箇所ごとに移動すると作業効率が悪かったため、ロッドホルダーを地盤機に固定し移動の手間を軽減した。
- ・各測点調査終了時の残尺本数・残尺長さが、確認しづらかったため、各ロッドに色付キャップを取付け残尺本数・残尺長さの認識性を高めた。

PRポイント(アピールしたい点や社内の効果など)

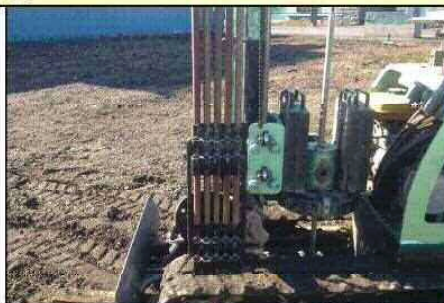
今までは、調査後にロッドを1本1本並べなければならぬ調査深度が深ければ深いほど、調査員の負担が増え雨の日などは、それ以上に大変でした。ロッドホルダーを使用することにより調査後にロッドを並べる手間がなくなり、調査員の負担が軽減され作業効率が想像以上に改善されました。

写真



ロッドホルダー付き

地盤調査機



ロッドホルダー



残尺状況



色付キャップ

コスト(活動に取組んだ経費など)

ロッド色付キャップ 1,000円×25人=25,000円

目的 ロッドホルダーを使用して調査員の作業効率を高める

《調査測点 5Pの場合》

- (1) 測点①調査前ロッド本数(15本)全景+アップ⇒ 2枚
- (2) 測点①調査終了時全景+アップ ⇒ 2枚
- (3) 測点②調査終了時全景+アップ ⇒ 2枚
- (4) 測点③調査終了時全景+アップ ⇒ 2枚
- (5) 測点④調査終了時全景+アップ ⇒ 2枚
- (6) 測点⑤調査終了時全景+アップ ⇒ 2枚
- (7) ロッド15本以上使用の場合は、追加で5本(1セット)全景+アップ⇒2枚

(1)

測点 ① 調査前 全景



① ロッドホルダーにロッド15本セット

測点 ① 調査前 アップ



① ロッド15本セット

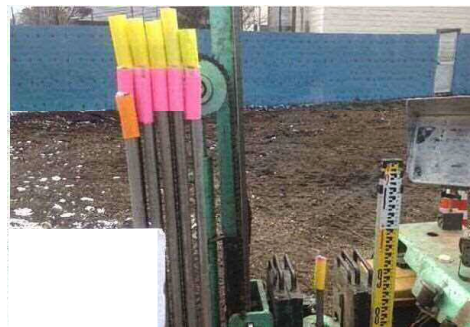
(2)

測点 ① 調査終了時 全景



① ロッドホルダーにロッド11本残り
② 調査後のロッド残尺 0.9m(スタッフ参照)
③ 調査深度は、3.1m

測点 ① 調査終了時 アップ



① ロッドホルダーにロッド11本残り
② 調査後のロッド残尺 0.9m(スタッフ参照)

(3)
測点 ② 調査終了時 全景



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)
- ③ 調査深度は、2.9m

測点 ② 調査終了時 アップ



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)

(4)
測点 ③ 調査終了時 全景



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)
- ③ 調査深度は、2.9m

測点 ③ 調査終了時 アップ



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)

(5)
測点 ④ 調査終了時 全景



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 0.9m(スタッフ参照)
- ③ 調査深度は、3.1m

測点 ④ 調査終了時 アップ



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 0.9m(スタッフ参照)

(6)
測点 ⑤ 調査終了時 全景



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)
- ③ 調査深度は、2.9m

測点 ⑤ 調査終了時 アップ



- ① ロッドホルダーにロッド11本残り
- ② 調査後のロッド残尺 1.1m(スタッフ参照)

(7)
ロッド15本以上使用 全景
(16m~20m)



- ① ロッドホルダーにロッド5本セット

ロッド15本以上使用 アップ
(16m~20m)



- ① ロッド5本セット